

日常の日本語教室や防災時の講座なども開催

ASHIYA にほんごがっきゅう(公民館)



「にほんごがっきゅうボランティアの会」市川さん、藤本さん、内垣さん

「にほんごがっきゅうボランティアの会」は、市内に住む外国人へマンツーマンで日本語を教える教室を開催して27年。

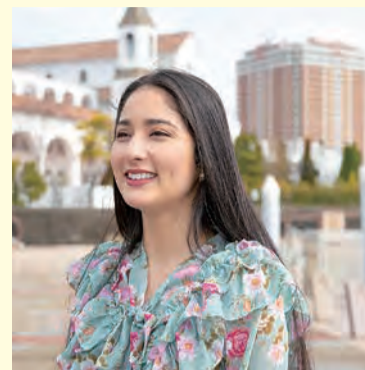
「にほんごがっきゅう」の生徒さんには、国際結婚して外国から芦屋市に住むことになった主婦の人が多くおられます。今までいろいろな国の生徒さんへ日本語を教えてきました。日本語を上手に話せる人もいれば、挨拶ぐらいでまったく話せない人もいて、それぞれのレベルに合わせて丁寧に教えることを心がけています。日本に来て間もない人は、日本語が分からず話す相手も少ないため、悩みごとの相談や、病院への付き添い、引っ越しのお手伝いなど、この教室をきっかけにいろいろ大変な経験もしてきました。でも、芦屋を離れ国に戻られた生徒さんの中には、今でも連絡のやり取りをしている人や、日本へ来た時には必ず芦屋を訪れてくれる人、「芦屋が私のふる里」と言ってくれる人もいます。本当にボランティアをしてきて良かったと思います。これからも、いろいろな国の人との出会いを楽しみながら続けていきたいです。



◀公民館で開催した防災講座では、市内に住む外国人13人が参加。「にほんごがっきゅうボランティアの会」を中心とする市民の皆さんと、災害時に備えて避難情報マップの確認や防災リュックの備えなどワークショップを交え、楽しみながら防災について受講しました。

生徒さんに
interview

表紙にも登場
マルガリータさん



「にほんごがっきゅう」へは2年半ほど通っています。漢字は少し難しいですが、日本語を楽しく勉強しています。今年は、日本語検定2級を目指して、頑張っています。

地域での多文化共生を目指しています

こくさいひろば芦屋



「外国のお母さんに学ぶ外国語を使った料理体験」では、お料理を通して言葉だけではなくお互いの文化を学び合う場を

母語教室に地域からの参加を呼びかけることで、地域の親子での参加者が増えています。学習者のお母さんたちが講師になり、ロシア語教室がスタートしています。母語教室で開催する「外国のお母さんに学ぶ、外国語を使った料理体験」には、多くの地域の人が参加されるだけでなく、それをきっかけに他の地域団体とのつながりや連携ができるようになってきました。



ロシア料理「ペルメニ」を作りながら、言葉と文化を楽しんでいます

先生に
interview

ロシアのお母さんに教わる家庭料理体験
リュドミラさんとアナスタシアちゃん

今回、講師をすることになって、とても緊張しました。料理体験では、「ペルメニ」という餃子に似た料理をつくりました。ロシアでは家族そろって作る料理です。ひき肉3キ



ロ分を作るのは大変でしたが、皆さんと一緒に作りました。娘のアナスタシアからも日本語をサポートしてもらい、楽しくお話ができ、家族みたいな時間を過ごせました。

地域とのつながりもできる日本語教室

週3回の外国人の人に向けた日本語教室と、子ども達の教科学習(学校の勉強)を行っています。これらの教室は、浜風小学校のコミスク活動のなかで開催しており、コミスク活動を通して地元の夏まつり、ラジオ体操、避難訓練などに外国人の人も一緒に参加しています。地域との連携を図ることで外国人の人が地域で暮らしやすい環境につながるよう、活動を行っています。



日常の学習風景(浜風小学校の会議室)

夢は「サッカー選手」の息子と一緒に頑張っています！

生徒さんに
interview



シルヴィアさんとルカスくん

こくさいひろばには、4年ほど通い、今はこくさいひろばの副代表もしています。きっかけは息子が通ってる学校からの案内で知りました。家では日本語より、ポルトガル語を使うので息子にとって、日本語の漢字は難しいようです。中学生になるとさらに難しくなるので、ここで色々な勉強して、お互い頑張りたいです。

さあ、みなさんも多文化を楽しみませんか？

こくさいひろば芦屋では、日本語教室・子どもたちの教科学習のほか、料理体験などのイベントを通してお互いの母語や文化を学び合う機会を作っています。外国人の人と住民が「ともに」地域社会へ貢献することで地域とつながり、お互いにとって住みやすいまちにしていきたいと思ひます。

「共に学び合う」という姿勢を忘れずに、これからの共生社会に向けて、多文化を楽しみながら、地域ならではの活動を続けていきたいと思ひます。



こくさいひろば芦屋
代表 三宅真理子さん